

豊かな実りが、暮らしを彩る日本の秋。「千葉の和」といえば、やはり鴨川市の長狭米だ。加茂川水系沿いにある長狭地方は、古くから関東有数の米どころとして知られ、生産される長狭米は、千葉が誇る名物米である。

れる「新嘗祭」は「大嘗祭」と呼ばれ、非常に重要な祭祀となっている。

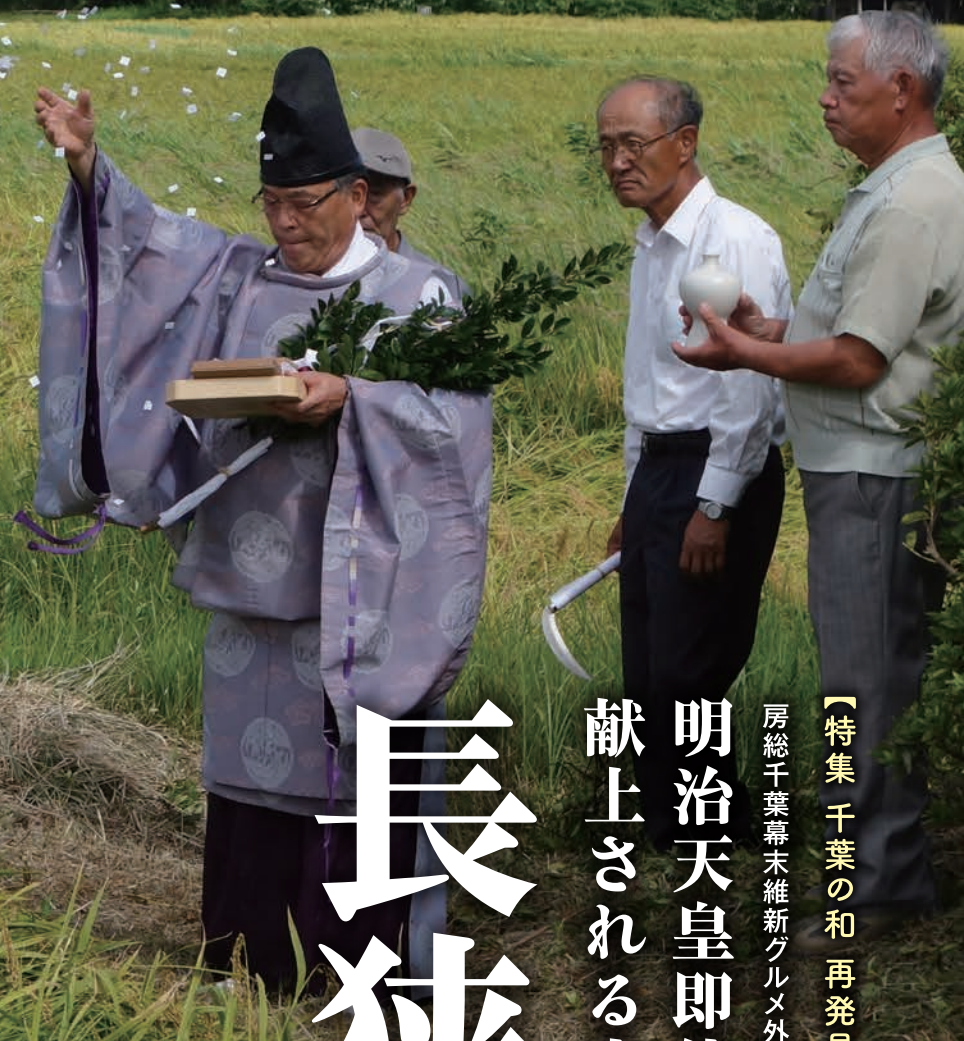
大嘗祭の米に選ばれた長狭米

明治天皇の「大嘗祭」は、これまでの先例とはいささか事情が違った。それは幕末の動乱に原因があった。倒幕の機運高まる、激動の最中に即位された明治天皇であるが、世情不安定により、「即位の礼」をはじめとした儀式は延期となっていた。「大嘗祭」の開催も大きく遅れ、ようやく執り行われたのは、何と明治四年（一八七二）のことであった。

しかもこの時、天皇は東京にあり、これまで奈良や京の都で行われていた「大嘗祭」が、有史以来はじめて東京で執り行うこととなったのだ。

「新嘗祭」で天皇が供える米は、古くより悠紀（ゆき）と主基（すき）と呼ばれる二つの齋田から選ばれる。

そして関東ではじめて選ばれた悠紀が山梨県甲斐巨摩の齋田。主基には千葉県長狭の齋田が選ばれた。これらふたつの齋田は、まさに関東を誇る米に選ばれたともいえる。



【特集 千葉の和 再発見!!】其之吉

房総千葉幕末維新グルメ外伝

明治天皇即位の大嘗祭に
献上される米に選ばれた

長狭米

鴨川市

実は長狭米は千葉のみならず、関東いや、日本の誇りともいえる。というのも長狭米は、維新の時代を、その一身に牽引していった明治天皇にとって、非常にゆかりのある米なのだ。天皇が行う宮中祭祀の中で、最も重

要な祭祀のひとつが、現在の「勤労感謝の日」に行われる「新嘗祭（にいなめさい）」だ。毎年天皇は「新嘗祭」において、皇祖及び神々に新穀を供え、その神恩に感謝して、天皇自らもこれを食す。中でも天皇の即位後、はじめて行わ

備を行ったのは当地を治めた花房藩の役人である。

そして九月二十三日。神祇省から抜穂使に任命された白川資訓らの一行が派遣され、稲を刈る「抜穂式」が開催。稲刈りには四人の村役人と、齋田を所有する七名の庶民が選ばれた。

大嘗祭の開催

かくして東京宮城（皇居）内の吹上御苑に、大嘗宮とよばれる祭場が設けられ、十一月十七日、悠紀殿と主基殿に、それぞれの齋田から収穫された稲が供えられると、「大嘗祭」が厳かに執り行われた。祭儀には太政大臣の三条実美をはじめ、西郷隆盛や大隈重信、板垣退助らの参議、江藤新平や井上馨、山県有朋ら諸長官など、幕末維新にゆかりの深い人々も出席した。

また大嘗祭では白酒（しろき）と黒酒（くろき）という神酒も供えられる。これは東京の「加島屋」が用意し、大正・昭和・平成と代々、その大役を担っている。「加島屋」はNHK朝の連続ドラマ「あさが来た」のヒロインが嫁いだ店のモデルとなったことでも知られる老舗店だ。

祭儀では、悠紀・主基両殿にそれぞれ二首の風俗歌も奏せられた。主基殿には神祇少輔の門脇重綾による「若間

ゆく、水の緑も長狭川 いさよふ瀬々の末深むらむ」と、神祇大録の飯田年平による「名くはしき 蓬が島は君が代の 長狭あがたの 神やつくりし」の二首が奏せられた。そして翌日には、芝離宮の「延遠館」にて、各国の公使や書記官、宣教師らを招いた祝宴も催された。「大嘗祭」の宴に外国人が招かれたのは、もちろんはじめてのことだ。各国公使らは、開化の道を進む中でも、古来からの「収穫に感謝の念を忘れない」という日本の姿勢に祝辞を送った。

現在も明治神宮に奉納

現在、悠紀となった山梨県の巨摩では、残念ながら米作りは行われていない。よってその歴史的な米を作り続けているのは主基齋田に選ばれた長狭米のみであり、齋田址には「主基齋田址公園」も整備されている。

実は現在でも主基齋田では毎年「抜穂祭」が執り行われ、刈り取られた長狭米が、亀田酒蔵の醸造する白酒とともに、明治神宮に奉納されているのである。良質な味わいとともに、明治天皇の「大嘗祭」における歴史と絆が、稲穂の揺れる鴨川の地に絶えること無く息づいている。



現在でも主基齋田の長狭米は明治神宮に奉納

明治天皇の「大嘗祭」が執り行われた後も、鴨川の主基齋田では、その栄誉を称えて記念祭が催されてきた。

やがて昭和五十六年、ちょうど「大嘗祭」から二〇年目にあたる節目のこの年、記念祭に明治神宮の宮司が参加された。

宮司は、明治天皇の齋田がそのままに残されていることに感動し、今後、明治神宮で執り行われる「新嘗祭」に主基齋田の稲穂と、その米で作った白酒を奉納できないかと相談した。そこで、鴨川市明治神宮崇敬講が発足され、白酒の醸造は地元老舗酒造「亀田酒造」が担当することとなった。



では、北辰神社(鴨川市)の宮司によるお祓いがある。そして刈られた稲穂が「明治天皇御齋田主基之地」の碑に捧げられるのだ。

稲を刈るのは、「大嘗祭」の際に選ばれた齋田の地主・松本興吉氏のご子孫が担当される。松本家には「大嘗祭」当時の「抜穂祭」で使用された穂刈鎌や羽織袴、派遣された抜穂使の一行が着座された座布団も保存されている。

今上陛下の御護位により、昨今再び注目されつつある「大嘗祭」。明治天皇の「大嘗祭」より四十年以上の月日が流れた現在であるが、鴨川の地には、当時のままに明治天皇のご偉功が満ちている。

明治天皇即位の大嘗祭に選ばれた長狭米



「大嘗祭」の当時、穂を刈った松本興吉氏のご子孫・松本恭一さん(写真左)によって、稲穂が刈られる。



主基齋田の地主で、その穂を刈った松本興吉氏(右端)【「明治天皇御遺蹟」より】



松本興吉氏が当時、稲を刈る際に着用した羽織袴と鎌。写真下の座布団は派遣された抜穂使の一行が着座されたもの。

明治神宮に奉納する 白酒を醸造する亀田酒造

主基齋田の稲穂とともに明治神宮へ奉納される白酒。その醸造を行う「亀田酒造」は宝暦七年(一七五七)に創業された老舗酒造だ。山伏による御神酒にルーツを持ち、銘酒「寿萬亀」で知られる。

白酒の醸造には、主基齋田のこしひかり五〇%精白の高精米が使用される。また仕込みにおいては「醸始祭」とよばれる儀式が、蔵の二階に設けられた神殿で執り行われ、厳粛な空気の中で白酒が生成される。完成した白酒は明治神宮に奉納され、明治天皇と昭憲皇太后の御神前へと供えられるのだ。

「亀田酒造」では、そのほか愛子内親王のご誕生記念や、紀宮清子内親王御結婚記念の際にも振舞酒を献上しており、現在の皇室にもゆかりが深い。千葉を代表する老舗酒蔵として、その歴史と誇りを紡いでいる。



【寿萬亀(じゅまんがめ)】亀田酒造株式会社

〒296-0111 千葉県鴨川市仲329番地 TEL(04)7097-1116 <http://jumangame.com>